上原美術館二天像（吽形）

上原コレクション名品選

都（みやこ）の祈り 伊豆（いず）の祈り

会期中無休
2024年4月27日［土］── 9月23日［月・休］

開館時間　午前9時30分 ─ 午後4時30分（入館は午後4時まで）
入 館 料　大人 1,000円／学生 500円／高校生以下無料　＊仏教館・近代館の共通券です　＊団体10名以上は10%割引

普門院二天像

東洋と西洋の美の出あい
上原美術館
Uehara Museum of Art

もののありか

静物画のふしぎ

上原コレクション名品選

会期中無休
2024年4月27日［土］── 9月23日［月・休］

開館時間　午前9時30分 ─ 午後4時30分（入館は午後4時まで）
入 館 料　大人 1,000円／学生 500円／高校生以下無料　＊仏教館・近代館の共通券です　＊団体10名以上は10%割引

東洋と西洋の美の出あい
上原美術館
Uehara Museum of Art

ポール・セザンヌ《ウルビノ壺のある静物》1872-73年

近代館

もののありか

静物画のふしぎ

上原コレクション名品選

ピエール＝オーギュスト・ルノワール《果物の静物》1902年頃

「ものとは何か」。それは古来より哲学者が向き合ってきた問いのひとつです。「もの」という言葉は、そこにあって掴むことのできる対象をあらわす一方で、それ以上の「何か」を含んでいます。画家たちは静物画を描くとき、ある「もの」を描きながら、その後ろに広がる大きな存在を見つめています。

セザンヌ《ウルビノ壺のある静物》は、布の上に置かれた果物と西洋トマト、色鮮やかなマヨルカ焼の壺が描かれています。壺は真正面から捉えられ、背景に大きな影を映します。右奥にあるカーテンは、模様が生き生きとした筆致で描かれ、布の上のモティーフと呼応するかのようです。再び果物や壺に目を移すと、それらは空中に浮かび上がるかのように不思議な存在感を放ち始めます。

セザンヌが本作を描いたのは30代前半。先輩の画家ピサロの影響を受けながら、自らの絵画を模索する時期でした。この頃、セザンヌとピサロはともに絵を描き、近くに住む医師ポール・ガシェの家を度々訪ねました。ガシェはパリのカフェで印象派の画家たちと芸術論を交わし、自らも絵や版画を制作するパトロンでした。自宅にはアトリエもあり、友人の画家を招きますが、そのガシェの家で描かれたのが本作です。セザンヌは本作と全く同じ構図の静物を、別の角度からも立体的に描いています(参考図版)。セザンヌはこのとき平面や立体を行き来することで、「もののありか」そのものに問いを投げかけています。そうしたセザンヌのまなざしは、間もなくリンゴが転がるような独特の静物画を生み出していきます。

本展では画家たちが描く「もの」へのまなざしに注目することで、「静物画のふしぎ」に迫ります。セザンヌの影響のもと新たな表現を模索する若き安井曾太郎による《静物》、光を浴びる果物と平面的な装飾模様が対照的なマティス《果物皿の傍に立つオダリスク》、生命の儚さをあらわすモティーフを現代的に捉えたドラン《静物》、印象派の色彩に伝統美を融合させたルノワール晩年の《果物の静物》など、画家たちによる「もの」へのまなざしをご紹介します。画家たちが描き出す「静物画のふしぎ」をお楽しみください。

左／ポール・セザンヌ《ウルビノ壺のある静物》1872-73年
右／参考図版：ポール・セザンヌ《イタリアの壺》1873年　個人蔵　画像出典：Paul Gachet, *Souvenirs de Cézanne et de Van Gogh à Auvers*, Les Beaux Arts, Paris, 1928.　＊本作は出展されません

アンドレ・ドラン《静物》1912年

安井曾太郎《静物》1912(明治45／大正元)年

アンリ・マティス《果物皿の傍に立つオダリスク》1924年
新収蔵・初公開

学芸員による作品解説

日時：会期中の第3土曜日　10時～(近代館)／11時～(仏教館)　※所要約60分
会場：上原美術館展示室
参加方法：当日、展示室にお集まりください　※予約不要・ご参加には入館券が必要です

仏教館

上原コレクション名品選

都の祈り 伊豆の祈り

六世紀、日本に伝えられた仏教は、伝えられた各地で、風土や人々の営み、祈りに応じて、多種多様な仏教美術を開花させました。上原美術館は、優れた仏教美術を収集してきましたが、その多くは上質で、造形的に整ったものです。コレクションの仏像や古写経は、全てが都で制作されたものではありませんが、都風を色濃く示すもの。本展ではこれを「都の祈り」と表現し、展示いたします。

一方当館は四十年に渡り、伊豆の仏教美術の調査研究を続けてきました。当館が伊豆で出会った仏像は、古いものは都風ですが、時代が降るにつれ、人々の生活に寄り添うような、素朴で時に愛嬌さえ感じさせるような親しみ深い造形となっていきます。

本展は、上原コレクションの、上質で美しい、いかにも都風の仏像や古写経と、伊豆に伝えられた、素朴で掴くすら見える半面、親しみやすく、魅力的な仏像をあわせて展示し、奥深い仏教美術の世界をご覧いただくものです。

上原美術館の二天像は、平安時代後期の等身大の像です。甲冑に身を固めた太い体軀、怒りの表情は巧みで、専門仏師の作に相応しく、たくましく屈強な戦士の姿です。一方で、河津町の普門院の二天像は、江戸時代の像。ガラス玉をはめ込んだ瞳を見開き、やはり武装する姿ですが、腕の上げ下げもどこかぎこちなく、ユーモラス。踏みつけた邪鬼は怪獣のようです。この二つは同じ仏で、甲冑を身に着け、邪鬼を踏まえる姿勢まで同じものの、造形は大きく異なります。

上原美術館の薬師如来像は、洗練された上品な姿。修理銘からかつては京都に伝えられたと考えられる、いかにも都風な仏像です。一方、下田市吉佐美地区の毘沙門天像の造形は素朴で荒削り。この二つの像の年代は数十年しか離れていないはずですが、造形感覚は全く異なります。仏教美術の多様で豊かな祈りの造形をご覧ください。

●薬師如来像　平安後期～鎌倉前期(12～13世紀)　上原美術館

●毘沙門天像
平安時代(12世紀)　下田市吉佐美

●不動明王像
室町後期～江戸前期　下田市吉佐美

●十二神将像(酉)
江戸時代　三島市安久・長福寺

●観音菩薩像(興福寺千体観音)
平安時代(12世紀)　上原美術館

●金剛三昧経・巻上(神護寺経)　平安時代(12世紀)　上原美術館

■**お車で**　新東名高速道路 長泉沼津ICより
下田方面へ 1時間30分

■**鉄道・バスで**　東京駅より特急踊り子号
2時間40分　伊豆急下田駅下車
同駅より堂ヶ島方面行バス 20分
相玉下車 徒歩15分

東洋と西洋の美の出あい

上原美術館
Uehara Museum of Art

〒413-0715 静岡県下田市宇土金341
Tel. 0558-28-1228　www.uehara-museum.or.jp